The Doctor of Our Town

わが街
ザ・ドクター

医療法人社団
はしだ眼科クリニック
院長 橋田節子

40歳を過ぎたら目の健康診断を

どんな病気も早期に発見し適切な治療を始めることが大事だ。しかし、実際には、まだ大丈夫だろうと放置している間に病状が進行するケースも少なくない。目の場合、とくに注意したいのは緑内障（りょくないしょう）である。

緑内障というと、高齢者の病気というイメージがあるが、40歳以上の約20人に一人がかかる。成人の中途失明の原因では第1位なのだ。

「実は、緑内障の約9割と推定される正常眼圧（がんあつ）緑内障は、眼圧が正常範囲で、よほど進行しないと自覚症状があらわれません。知らない間に視神経のダメージが進んでしまい、仮に片方の目の視野の一部が欠けても、もう片方の目が補うので、緑内障に気づいていない方も多いのではないかと思われます。

緑内障や白内障（はくないしょう）などの目の病気の早期発見のために、何も症状がなくても40歳を過ぎたら目の検査をしてほしい」と、橋田医師は語る。

◀8面に続く

＊健康情報新聞「健康と良い友だち」2021年10月号 掲載

わが街
ザ・ドクター

◀1面より続く

個々の状態に応じて治療のゴールを選択

老眼、結膜炎（けつまくえん）、ものもらい、ドライアイ、花粉症、疲れ目（眼精疲労）、飛蚊症（ひぶんしょう）（黒い物が飛ぶように見える）、VDT症候群（長時間にわたってパソコンなどの画面を見ることにより目や心身に様々な症状が出る）などの一般的な眼科の病気はもちろん、角膜疾患や糖尿病網膜症（もうまくしょう）、緑内障（りょくないしょう）、白内障（はくないしょう）といった専門的な検査や治療にも対応し、小児眼科、眼科ドックやセカンドオピニオンも実施している橋田医師の眼科クリニック。JR目黒駅に直結する駅ビルの4階というアクセスの良さも、患者にとっては嬉しいところだ。

「検査機器をはじめ、眼内レンズなどの治療器具や薬剤などは以前よりも格段に進化し、術前に詳細なデータを得た上で、より的確な診断ができるようになっています。さらに眼科医や麻酔科医、看護師などのチーム医療も常にレベルアップを図り、安全性の高い手術ができるよう心がけています。

とくに私が重視しているのは、個々に異なる眼の状態に応じた適切な治療の選択です。当たり前のことですが、眼の形や強度など、眼の状態は患者さん一人ひとり異なります。同じ年齢、同じ病気であっても、その患者さんの眼の状態、生活環境、ライフスタイル、ご本人の希望も含め〝どう見えるようにすればよいのか〟という治療のゴールは違ってきます。

ですから術後のケアも含め、総合的な診断について十分に説明し、より良い結果につながるよう相談しながら治療方針を決めていく、このプロセスも非常に大事だと思っています」

たとえば白内障の場合、スペシャリストによる手術は片眼10分程度、その後30分ほど休んでから保護レンズをかけて帰宅する。近年こうした日帰り手術は一般的だが、挿入する眼内レンズは数種類あり、患者の眼の状態やライフスタイルに応じて適切なレンズを選ぶ必要がある。そのためには手術前から手術後にいたるまでの総合的かつ的確な診断とアドバイスが不可欠なのである。

なかには〝白内障の手術をしたら世界が変わるほど見えるようになった〟などと、他人の話を自分に当てはめて考える人もいるようだが、術後の眼の状態は様々な要因から導かれた結果であり、他人と比較できるものではないということを患者自身も知っておくべきである。

大学病院並みの検査と治療を行うために

特筆すべきは、大学病院レベルの最新検査ができることだ。緑内障のほか、黄斑部（おうはんぶ）（網膜の中心部で、視力にかかわる最も大切な部分）の病気として加齢性黄斑変性症（おうはんへんせいしょう）、黄斑上膜（じょうまく）、糖尿病黄斑症などがあるが、これらの病気を早期発見し、経過観察が可能になったのは最新式の検査機器で、より正確な診断ができるようになったからである。

たとえば、最新式の自動視野計（ハンフリー自動視野計やアイモ）は、自覚症状のない初期段階での小さな視野異常も調べることができる。アイモは視野検査をより簡単にスピーディに検査ができる上、コントラスト感度検査の機能もついている新しい視野計だ。

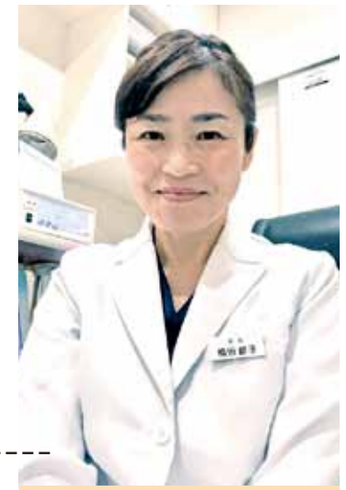
眼底（がんてい）の状態を短時間で観察できるOCT（光干渉断層撮影）は、眼の奥の網膜をミクロン単位で撮影し、微細な変化をとらえることができ、眼底の血管の状態を撮影する際に造影剤を使用しなくてもよい。

「検査機器や手技の進歩によって患者さんの眼にかかる負担が減ることになるとはいえ、手術のリスクはゼロではありませんし、眼の状態を総合的に判断した上での手術適齢期というものもあるのではないかと考えています。その見極めができるのは、やはり経験に基づく医師の知識と技術だと思います」

一般に目の具合が悪いと、インターネットなどで症状を確認したり、医師を選んだりする人がいるようだが、安易な思い込みによって受診が遅れたり、こんなはずではなかったという、医師や診療に対する不満につながったりすることもある。診断能力に優れている医師との出会いは、治療結果に反映されるだけに患者にとっては何より重要だが、「確実なのは家族や友人の口コミだと思う」と橋田医師は断言する。

「緑内障やドライアイなどの新薬の治験を行うとともに、新しい治療や技術を積極的に取り入れていく上で、この先生の言うことなら信用できる、安心して身をまかせられる――そう思っていただけるように、ただ患者さんの希望を聞くだけでなく、様々な情報を収集し、きめ細やかな判断をするようにしています。

医師と患者さんが力を合わせて築いた信頼関係があればこそ、納得できる治療結果を得ることができるのだと思います」



医療法人社団 はしだ眼科クリニック
院長 橋田節子（はしだ・せつこ）

1992年 国立香川医科大学を卒業後、久留米大学医学部付属病院眼科に入局。1995年 済安堂井上眼科病院に入職、1997年 同病院眼科医局長、1999年 井上眼科病院付属お茶の水眼科クリニック所長、屈折矯正手術（LASIKなど）、角膜外来担当。2004年 Jules Stein Eye Institute, UCLA Cornea-External Ocular Disease & Uveitis Division Visiting Assistant Professor。2006年より現職。
日本眼科学会認定 眼科専門医。日本眼科手術学会、眼内レンズ屈折手術学会、日本緑内障学会、ARVO（The Association for Research in Vision and Ophthalmology）、ASCRS（AMERICAN SOCIETY OF CATARACT AND REFRACTIVE SURGERY）。

●医療法人社団はしだ眼科クリニック
〒141-0021 品川区上大崎 2-16-9
アトレ目黒 1の4階
TEL：03-5791-5430
JR山手線・東京メトロ南北線
東急目黒線「目黒駅」アトレ目黒 1の4階
●診療科目：眼科一般
●診療日
月曜、水曜（午前）、木曜、金曜、土曜、日曜、祝日
10:00～13:00 / 14:30～19:00
（受付終了 午前12:30 / 午後18:00）
●休診日：火曜、水曜の午後、年末年始
アトレ休館日
＊診療の曜日・時間は、新型コロナ感染拡大の状況により変更となる場合があります。